

新春挨拶

新年のご挨拶



泉 信也
国土交通副大臣

皆様におかれましては、お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年初冬の敬宮愛子内親王殿下のご誕生は、21世紀の始まりに相応しい慶事でした。改めて皆様とともにお祝い申し上げ、お健やかなご成長をお祈りいたしたいと存じます。

新しい世紀の幕明けを大いに期待した昨年でありましたが、社会的にも経済的にも、前途の厳しさを見せつけられた1年でした。

米国に発生したテロは、人間の生き方に途方もない難題を提起しました。ビンラディンを中心とするイスラム過激派の行動は、これまでの限定的な目的、対象を拡大し、全世界を不安に陥れた凶事です。世界の経済活動に大きな影響を与えています。日常生活にも少なからざる陰りが及んでいます。アフガニスタンの展開には予想し難いところがありますが、仮に今の戦いが終結いたしましても、今日の「不安」が払拭される日は予測できないとも言われます。

平成14年の新年はこうした状況のもとで迎えました。日本の社会にとって、構造改革を進める上からも、このテロは大きなマイナス要因であります。航空界、旅行界をはじめとする運輸業界も、昨年にも増します厳しい経営環境を覚悟しなければならぬことを心配しています。

経済活動の低迷は、当然人の流れ、物の動きに影響を与えます。どこかの運輸界に陽が当たるという事態は想像できません。

それでも太陽の昇らない日はないと言います。人間の叡智を信じ、未来に夢を託して参ろうではありませんか。今年も頑張りましょう。ご健闘をお祈り申し上げます。

国土交通副大臣を拝命し一年が過ぎました。運輸総括政務次官に就任いたしましたのが一昨年の七月でしたので、随分ながい間、活動の機会を与えて頂いたこととなります。これもひとえにご支援を頂戴しています皆様のお陰であり、改めて感謝申し上げます。

国土交通行政に対する国民の厳しい批判がございます。その一つの現れが日本道路公団を始めとする特殊法人の改革であったと受け止めています。大枠は決まりましたが、具体的組織論はこれからの課題となっています。安全の確保、環境の保全、高齢化への対応、運輸交通・建設事業の高度化など、依然として難問山積であります。

皆様のご指導をいただきながら、精一杯努めて参ります。今年も何とぞ宜しくお願いいたします。

終わりに(社)日本作業船協会のご発展と会員の皆様方のご健勝をお祈りし、新年のご挨拶といたします。